

## 歴代誌第二18-20章「世の融和との戦い」

### 1A 悪者への愛 18

1B 偽預言者 1-11

2B 裁きのための惑わし 12-27

3B 辛うじての救い 28-34

### 2A 民への教え 19

1B 預言者の警告 1-3

2B 主を恐れる裁判 4-11

### 3A 主の救い 20

1B 大軍の直面 1-30

1C 必死の祈り 1-13

2C 慰めの預言 14-23

3C 分捕り 24-30

2B 業績と失敗 31-37

## 本文

歴代誌第二 18 章を開いてください。私たちは前回、ヨシャパテの治世の初めの部分を学びました。17 章です。父アサに続いて、彼はこれまでにない宗教改革を行ないました。アサよりも優れていることがありました。それは、民に律法を読み聞かせた、ということです。レビ人や祭司たちを巡回させて、律法を教えたのです。私たちが、このように聖書の学びによって神の知識を知ることによって、一時的ではない、持続的な霊的復興を期待することができます。それは、信仰の土台は、聖書にある神の御言葉の知識にあるからです。

### 1A 悪者への愛 18

けれども、アサがあれだけ主を愛し、主に従ったのに、その晩年が主から離れてしまった、その変容を読みました。ヨシャパテにも、同じような、どうしても理解できない変なことをします。それは、極悪王アハブとの縁結びです。

### 1B 偽預言者 1-11

18:1 こうして、ヨシャパテには富と誉れとが豊かに与えられたが、彼はアハブと縁を結んだ。18:2 何年かたって後、彼が、サマリヤに下ってアハブのもとに行ったとき、アハブは彼および彼とともにいた民のために、おびたしい羊や牛の群れをほふったうえ、彼を誘い込んで、ラモテ・ギルアデに攻め上らせようとした。18:3 そのとき、イスラエルの王アハブはユダの王ヨシャパテに言った。「私とともにラモテ・ギルアデに行ってくれませんか。」すると、彼は答えた。「私とあなたとは同じようなもの、私の民はあなたの民と同じようなものです。あなたとともに戦いに臨みましょう。」

アハブはヤロブアムの罪、つまり金の子牛の罪だけでなく、シドンの王の娘イゼベルを自分の妻として、バアル信仰を取り入れた人物です。そしてヨシャパテは、現にバアルを求めないように細心の注意を払ったことが 17 章 3 節に書いてあります。

この極悪王になぜ近づいたのか。おそらく、「兄弟と一つにならないといけない」という融和であろうと思います。イスラエルとユダは、元々は一つです。そしてソロモンの背教によって、この国が分裂しました。主が願っておられるのはもちろん統一です。けれども、悪と善は相容れません。「正義と不法とに、どんなつながりがあるでしょう。(2コリント 6:14)」そこでこれから見ていく 18 章は、ヨシャパテがいかにかに悪に唆されていくか、異様な光景を見ていきます。けれども、彼は変だ、と知っていることには声を出しています。こんなところに、ヨシャパテ、いちゃいけないよ！と叫びたくなるような、場違いの雰囲気強く醸し出しています。

まず、ヨシャパテは富と誉れが、主を恐れたゆえに与えられました。アハブが融和的な接近をしてきました。けれどもその接近は、貪りです。その富が欲しかったのです。ヨシャパテは見分けがついていませんでした。そして、アハブはたくさんの羊や牛の群れをほふって、彼を盛大にもてなします。これは豪勢な食事ということでもあり、またこれだけ主を礼拝しているのだと、偽って霊的に見せているのかもしれない。そして、自分の予てからの野心である、シリアのラモテ・ギルアデの共同戦線へと誘い込みました。

18:4 ヨシャパテは、イスラエルの王に言った。「まず、主のことばを伺ってみてください。」18:5 そこで、イスラエルの王は四百人の預言者を召し集めて、彼らに尋ねた。「私たちはラモテ・ギルアデに戦いに行くべきだろうか。それとも、私はやめるべきだろうか。」彼らは答えた。「上って行きなさい。そうすれば、神は王の手にこれを渡されます。」18:6 ところが、ヨシャパテは、「ここには、私たちがみこころを求めることのできる主の預言者がほかにいないのですか。」と言った。

ヨシャパテの霊性がよく現れています。ラモテ・ギルアデにいっしょに行きましょう、と言ったものの、主の御心を求めることを忘れませんでした。私たちはどうでしょうか？何をやる時に、「それでは、このことについてまず祈ろう。」と言っているのでしょうか？それとも、自分たちでいろいろ動いて、それからその計画を神が祝福してくださるよう願っているのでしょうか？まず祈ることが、霊的です。

さらに、アハブの用意した預言者たちが、いかにも胡散臭かったのです。一斉に、「上って行きなさい」と預言しました。ここに葛藤がありません。思い悩みがありません。あまりにも、一致しています。これがいかかわしいのです。主の御心を知ることは葛藤を生みます。カルバリー西東京との合同修養会の礼拝説教で、私は、エレミヤ書から「自分の考えと正反対の御心」という題名で話しました。主の御心は、私たちが自然に浮かんでくる思いと正反対のことがほとんどです。だから、自分を捨て、主の御心に服します。だから、「ここには、私たちがみこころを求めることのできる主の預言者がほかにいないのですか。」と尋ねました。

18:7 イスラエルの王はヨシャパテに答えた。「いや、ほかにもうひとり、私たちが主のみこころを求め  
ることのできる者がいます。しかし、私は彼を憎んでいます。彼は私について、決して良いことは預言  
せず、いつも悪いことばかりを預言するからです。それは、イムラの子ミカヤです。」すると、ヨシャパテ  
は言った。「王よ。そういうふうには言わないでください。」18:8 そこで、イスラエルの王はひとりの宦  
官を呼び寄せ、「急いで、イムラの子ミカヤを呼んで来なさい。」と命じた。

イスラエルの王はミカヤを憎んでいました。なぜか？自分について、決して良いことは預言せず、い  
つも悪いことばかりを預言する、とのことです。この人、神の預言を聞く資格がありません。神の預言  
は、良い知らせの前に悪い知らせを伝えます。「悪いことを言って下さんな。」という人は、決して福音  
を受け入れることはできません。なぜなら、「あなたは罪人で、死ぬべき罪人だ」というのが福音の始  
まりだからです。こんなこと聞いてられないと憎んでいる人は、キリストの十字架にある神の深い憐れ  
みと癒しに触れることはできません。

18:9 イスラエルの王と、ユダの王ヨシャパテは、おのおの王服を着て、王の座に着き、サマリヤの門  
の入口にある打ち場にすわっていた。預言者はみな、ふたりの前で預言していた。18:10 そのとき、  
ケナアナの子ゼデキヤは、王のために鉄の角を作って言った。「主はこう仰せられます。『これらの角  
で、あなたはアラムを突いて、絶滅させなければならない。』」18:11 ほかの預言者たちもみな、同じよ  
うに預言して言った。「ラモテ・ギルアデに攻め上って勝利を得なさい。主は王の手にこれを渡されま  
す。」

門の入口は、王やさばきつかさが座る、行政機関であります。そこで預言していました。ゼデキヤは  
鉄の角まで作って、王たちの心を動かそうとしています。決して、人の素振りや面白おかしさ、その話  
のうまさによって、その話の真実を測らないでください。つまらないな、と思っている、しっかりと御言  
葉が解き明かされているのであれば、しっかりと耳を傾けるべきです。

## 2B 裁きのための惑わし 12-27

18:12 さて、ミカヤを呼びに行った使いの者はミカヤに告げて言った。「いいですか。預言者たちは口  
をそろえて、王に対し良いことを述べています。お願いですから、あなたもみなと同じように語り、良い  
ことを述べてください。」18:13 すると、ミカヤは答えた。「主は生きておられる。私の神が告げられるこ  
とを、そのまま述べよう。」

すごいですね、彼らは申し合わせていました。ここに偽預言者になる方法が書かれています。他の  
人たちがどう思うか、人を喜ばせるようなことを言おう、そうしたクリスチャンの励ましは、偽預言です。  
神を喜ばせることは、神が言われたから、そして相手を神の愛で愛することだが、真実なのです。キリ  
スト者が集まる時、交わる時は、単に相手を喜ばすことではなく、主にあって励まし、慰める預言的な  
言葉でなければいけません。そうでなければ、私たちの言葉はセールスマンや、酒屋のママやコンパ  
ニオンのお姉さんのような言葉になってしまいます。それらは偽預言です。

18:14 彼が王のもとに着くと、王は彼に言った。「ミカヤ。私たちはラモテ・ギルアデに戦いに行くべきだろうか。それとも、私はやめるべきだろうか。」すると、彼は答えた。「攻め上って勝利を得なさい。彼らはあなたがたの手に渡されます。」18:15 すると、王は彼に言った。「いったい、私が何度あなたに誓わせたら、あなたは主の名によって真実だけを私に告げるようになるのか。」18:16 彼は答えた。「私は全イスラエルが、山々に散らされているのを見た。まるで、飼い主のいない羊の群れのように。そのとき、主は仰せられた。『彼らには主人がいない。彼らをおのおのその家に無事に帰さなければならぬ。』」18:17 イスラエルの王はヨシャパテに言った。「彼は私について良いことを預言せず、悪いことばかりを預言すると、あなたに言っておいたではありませんか。」

ミカヤは、最初は皮肉交じりの口調で話して、それから真剣になって、真の預言を行ないました。王は死に、イスラエルは散り散りになります。

18:18 すると、ミカヤは言った。「それゆえ主のことばを聞きなさい。私は主が御座に着き、天の万軍がその右左に立っているのを見ました。18:19 そのとき、主は仰せられました。『だれか、イスラエルの王アハブを惑わして、攻め上らせ、ラモテ・ギルアデで倒れさせる者はいないか。』すると、ある者は一つの案を述べ、他の者は別の案を述べました。18:20 それから、ひとりの霊が進み出て、主の前に立ち、『この私が彼を惑わします。』と言いますと、主が彼に『どういふふうにするのか。』と尋ねられました。18:21 彼は答えました。『私が出て行き、彼のすべての預言者の口で偽りを言う霊となります。』すると、『あなたはきっと惑わすことができよう。出て行って、そのとおりにせよ。』と仰せられました。18:22 今、ご覧のとおり、主はここにいるあなたの預言者たちの口に偽りを言う霊を授けられました。主はあなたに下るわざわいを告げられたのです。」

こういうようなことが、本当にあるのか、主が惑わす霊を遣わすなどあるのか？と思われるかもしれませんが。けれども、ヨブ記においてサタンが主からの許諾を受けて、ヨブのものを奪い去りました。黙示録では、悪霊どもが神の主権の中でのみしか動けません。

そして主は、同じことを終わりの日に行われます。福音の真理を愛さなかった者は、反キリストの偽りを信じていくようになります。「不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行なわれます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべての者が、さばかれるためです。(2テサロニケ 2:9-12)」主は、福音を信じない者を滅ぼされます。その方法として、反キリストの偽りを信じるようにさせ、反キリストと同じ運命の中に入るようにさせます。

18:23 すると、ケナアナの子ゼデキヤが近寄って来て、ミカヤの頬をなぐりつけて言った。「どの道を通って、主の霊が私を離れて行き、おまえに語ったというのか。」18:24 ミカヤは答えた。「いまに、あなたが奥の間にはいって身を隠すときに、思い知るであろう。」18:25 すると、イスラエルの王は言った。「ミカヤを連れて行け。町のつかさアモンと王の子ヨアシュのもとに下らせよ。18:26 王が『この

男を獄屋に入れ、私が無事に戻って来るまで、わずかなパンとわずかな水をあてがっておけ。』と命じたと言え。」18:27 ミカヤは言った。「万が一、あなたが無事に戻って来られることがあるなら、主は私によって語られなかったのです。」そして、「みなの人々よ。聞いておきなさい。」と言った。

殴られ、軟禁されるミカヤですが、真の預言者であるかどうかはその言葉の成就にあります。

### 3B 辛うじての救い 28-34

この時点で、ヨシャパテはやめるべきだったのです。しかし、やめなかった。そこで主は、彼を戦いの中で死ななければいけないところまで追い込まれました。

18:28 こうして、イスラエルの王とユダの王ヨシャパテは、ラモテ・ギルアデに攻め上った。18:29 そのとき、イスラエルの王はヨシャパテに言った。「私は変装して戦いに行こう。でも、あなたは、自分の王服を着ていてください。」こうして、イスラエルの王は変装し、彼らは戦いに行った。

あからさまな策略と裏切りに対して、ヨシャパテはそのまま応じてしまっています。

18:30 アラムの王は、自分の配下の戦車隊長たちに命じて言った。「兵や将校とは戦うな。ただイスラエルの王をみざして戦え。」18:31 戦車隊長たちはヨシャパテを見たとき、「あれはイスラエルの王に違いない。」と思ったので、彼を取り囲んで戦おうとした。すると、ヨシャパテは助けを叫び求めた。主は彼を助けられた。神は彼らを、彼から離れるように仕向けられた。18:32 戦車隊長たちは、彼がイスラエルの王ではないことを知ったとき、彼を追うことをやめ、引き返した。18:33 ところが、ひとりの兵士が何げなく弓を放つと、イスラエルの王の胸当てと草摺の間を射抜いた。そこで、王は戦車の御者に言った。「手綱を返して、私を敵陣から抜け出させてくれ。傷を負ってしまった。」18:34 その日、戦いはますます激しくなった。イスラエルの王はアラムに向かって、夕方まで戦車の中に立っていたが、日没のころになって死んだ。

列王記にはありませんでしたが、歴代誌には、ヨシャパテがかろうじて救われた理由が書かれています。助けを叫び求めたのです。それで主が助けられました。ヨシャパテは殺されてもおかしくなかったのに、彼の叫びに答えられて助けられました。

### 2A 民への教え 19

そこで預言者がヨシャパテのところにやって来て、神の叱責を伝えます。

#### 1B 預言者の警告 1-3

19:1 ユダの王ヨシャパテは無事に自分の家に帰り、エルサレムに戻った。19:2 すると、先見者ハナニの子エフーが彼の前に出向いて来て、ヨシャパテ王に言った。「悪者を助けるべきでしょうか。あなたは主を憎む者たちを愛してよいのでしょうか。これによって、あなたの上に、主の前から怒りが下ります。19:3 しかし、あなたには、良いことも幾つか見られます。あなたはこの地からアシェラ像を除き去

り、心を定めて常に神を求めて来られました。」

かつてアサに対して預言したのが、ハナニでした。エフーの父です。なぜ、悪者を助けてはいけないのか？それは、主を憎む者だから、ということです。18章において、主を憎む者を愛するとどうなるのかが、見事に描かれていました。私たちは悪に対して忍耐する、耐え忍ぶということと、悪を是認することを混同します。悪いことをした人がいて、その人を受け入れるけれども、その悪は悪なのです。先日、95歳を迎えたビリー・グラハムですが、かつて彼は罪を犯して牢屋にまで入れられたジム・ベッカーという元テレビ伝道師を訪問し、「私はお前を愛しているよ」といって抱擁しました。(参照：[www.topix.com/forum/city/branson-mo/TEE7M3ODBQLBDDK0B](http://www.topix.com/forum/city/branson-mo/TEE7M3ODBQLBDDK0B))こんな悪いことをしたのに、その彼を「愛しているよ」という人がどこにいるのでしょうか？これは聖い愛です。けれども、彼の犯した罪は、だから大して重くないのだと言ったらどうでしょうか？違いますね、悪は悪なのです。しかし、その人を耐え忍び、受け入れるのです。

この警告の中に、悔い改めの道も入っています。アシェラ像を取り除いた、そして心を定めて常に神を求めてきた、ということです。歴代誌第二では「神を求める」という言葉が鍵になります。そこでヨシャパテは悔い改めて、「裁判」という領域で主を求め始めます。

## 2B 主を恐れる裁判 4-11

19:4 ヨシャパテはエルサレムに住んだ。それから、彼はもう一度ベエル・シェバからエフライムの山地に至る民の中へ出て行き、彼らをその父祖の神、主に立ち返らせた。19:5 さらに、彼はこの地、すなわち、ユダにあるすべての城壁のある町々にさばきつかさを立て、町ごとにこれを任命し、19:6 さばきつかさたちにこう言った。「あなたがたは自分のする事に注意しなさい。あなたがたがさばくのは、人のためではなく、主のためだからです。この方は、さばきが行なわれるとき、あなたがたとともにおられるのです。19:7 今、主への恐れがあなたがたにあるように。忠実に行ないなさい。私たちの神、主には、不正も、えこひいきも、わいろを取ることもないからです。」

ヨシャパテは、再びユダ全国を巡って、主に立ち返らせるようにしました。そして、さばきつかさに指導を与えます。裁くのは、自分のためではなく、主のためである。そして、主への恐れがあるべきで、忠実に行いなさい、ということです。不正やえこひいき、賄賂に注意します。これは、私たちの判断においても適用できる原則でしょう。教会の中で悔い改めなければいけない者がいるならば、そうしなければいけないことが新約聖書に書いてあります。イエス様が福音書の中で言われました。その時に、自分が傷ついたとか、そうした自分の理由ではなく、主のための判断であるか吟味すべきです。それから、主への恐れのみがなければいけません。そして、「忠実」も大事です。私たちはどうしても、成果、目に見える結果を求めてしまいがちです。そうではなく、主に対してどれだけ言われたことを成し遂げているかが大事です。そして、不正やえこひいき、つまり人を見てはいけません。

19:8 なお、ヨシャパテはエルサレムでは、レビ人と祭司の中から、またイスラエルに属する一族のかしらたちの中から、主のさばき、および訴訟に携わる者たちを任命していた。エルサレムに帰ったとき、

19:9 彼はこの人々に次のように命じた。「あなたがたは、主を恐れ、忠実に、また全き心をもって、このように行なわなければなりません。19:10 おのおのの町に住んでいるあなたがたの兄弟たちから、あるいは互いの流血事件について、あるいは律法、命令、おきて、定めなどについて、あなたがたのところに訴訟が持ち込まれた場合には、いつでも、あなたがたは、彼らが主に対して罪を負い、その結果、あなたがたとあなたがたの兄弟たちの上に御怒りが下ることのないよう、彼らに警告を与えなければなりません。あなたがたはこのように行ないなさい。そうすれば罪を負わずに済むのです。19:11 ご覧なさい。あなたがたの上のかしら、祭司アマルヤは、主の事がら全体に当たります。また、ユダの家のつかさイシュマエルの子ゼバデヤは王の事がら全体に当たってくれます。さらに、あなたがたの前のレビ人はつかさです。勇気を出して実行しなさい。主が善人とともにいてくださるように。」

ヨシャパテは、エルサレムにおいては、さらなる細心の注意を払って、裁判をしなければいけないことを指導します。律法を具体的に適用し、それを裁判の中で生かさなければいけません。そして、誤った判断をしたため、神がご自分の律法がないがしろに、されたことで御怒りを出さないよう気をつけるべきです。

これを新約時代に当てはめるなら、教師が格別な裁きを受けるということでしょう。「私の兄弟たち。多くの者が教師になってはいけません。ご承知のように、私たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです。(ヤコブ 3:1)」神の御言葉をそのまま当てはめることなく、自分の考えで判断するならば、格別きびしい裁きを受けます。例えば、イエス様を知らずに死んだ人はどうなるのですか？という問いかけに対して、私は口が裂けても「天国にいるから大丈夫」とは言えません。それで、怒り、その人が自分からいなくなっても言えません。神のみことばを曲げてまで、自分の口に災いをもたらしたくないからです。

### **3A 主の救い 20**

そしてこのことがあってから、大軍がユダを押しよせます。前回学びました、父アサも同じでした。エチオピア人がユダを攻めてきましたが、それは彼が宗教改革をユダの中で断行した後です。

#### **1B 大軍の直面 1-30**

##### **1C 必死の祈り 1-13**

20:1 この後、モアブ人とアモン人、および彼らに合流したアモン人の一部が、ヨシャパテと戦おうとして攻めて来た。20:2 そこで、人々は来て、ヨシャパテに告げて言った。「海の向こうのアラムからおびただしい大軍があなたに向かって攻めて来ました。早くも、彼らはハツァツオン・タマル、すなわちエン・ゲディに来ています。」

死海の東モアブとその北東に位置するアモン、そしてアモン人の一部とありますが、死海の南にあるセイル山のメウニム人というアラビア系の者たちであると考えられます。この連合軍が攻めてきて、実に死海の西、エン・ゲディまで来ました。そして、ヨシャパテは恐れしました。それはその大軍に対する恐

れなのかもしれませんが、もしかしたら主の許しの中で起こったことを思って、主への恐れかもしれません。

20:3 ヨシャパテは恐れて、ただひたすら主に求め、ユダ全国に断食を布告した。20:4 ユダの人々は集まって来て、主の助けを求めた。すなわち、ユダのすべての町々から人々が出て来て、主を求めた。

歴代誌第二で最も大事な言葉が出てきました。「ただひたすら主に求め」であります。他のものを求めずに、主を求めました。そしてその求めの強さが、断食を布告するところに現れています。祈りに集中するのです。軽々しいものではなく、しっかりと主に目を向けて祈ります。そしてすばらしいのは、ヨシャパテのみならず、ユダの人々すべてが主の助けを受けるために集まってきたことです。ヨシャパテが、自分の命を一般の民に注いで、主を教えた、その霊的果実をここで見ます。

20:5 ヨシャパテは、主の宮にある新しい庭の前で、ユダとエルサレムの集団の中に立って、20:6 言った。「私たちの父祖の神、主よ。あなたは天におられる神であり、また、あなたはすべての異邦の王国を支配なさる方ではありませんか。あなたの御手には力があり、勢いがあります。だれも、あなたと対抗してもちこたえうる者はありません。20:7 私たちの神よ。あなたはこの地の住民をあなたの民イスラエルの前から追い払い、これをとこしえにあなたの友アブラハムのすえに賜わったのではありませんか。

ヨシャパテの祈りの優れているところは、自分が祈っている相手がどのような方なのかを、はっきり告げていることです。天におられる神であり、すべての異邦の王国を支配される方です。モアブにも神がいます。アモンにも神がいます。けれども、イスラエルの神はイスラエル人だけの神ではありません。そして偶像ではありません。アモンもモアブも、すべての王を支配されている神です。そして、この力強い方が、イスラエルの民に約束の地でカナン人たちを追い払ってくださいました。つまり、神は全てを支配する王であるばかりでなく、ご自分の民のために戦ってくださる方です。私たちは、自分の神が創造主であり、全能の神であることを告白できるかもしれませんが、キリストの内にいる者にとって味方になってくださる、その全能の力を信仰と共に示してくださる、とどこまで信じられているでしょうか。

20:8 彼らはそこに住み、あなたのため、御名のために、そこに聖所を建てて言いました。20:9 『もし、剣、さばき、疫病、ききんなどのわざわいが私たちに襲うようなことがあれば、私たちはこの宮の前、すなわち、あなたの御前に立って・・あなたの御名はこの宮にあるからです・・私たちの苦難の中から、あなたに呼ばわれます。そのときには、あなたは聞いてお救いくださいます。』

ソロモンが神殿を奉献する時に、捧げた祈りです。今、まさにヨシャパテ、またユダの民全員が集まってこのことを行っています。これは教会では、次と同じ祈りの約束になります。教会は私たち信じる者たちが聖霊の宮であり、集まる者たちの間にイエスの御名が置かれています。「まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心をつにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。ふたりでも三人でも、わたしの名にお

いて集まる所には、わたしもその中にいるからです。(マタイ 18:19-20)」

20:10 ところが今、アモン人とモアブ人、およびセイル山の人々をご覧ください。この者たちは、イスラエルがエジプトの地を出て来たとき、イスラエルがそこに侵入することをあなたがお許しにならなかった者たちです。事実、イスラエルは彼らから離れ去り、これを根絶やしにすることはしませんでした。20:11 ご覧ください。彼らが私たちにしようとしていることを。彼らは、あなたが私たちに得させてくださったあなたの所有地から私たちを追い払おうとして来ました。

ここでは、モーセがイスラエルの民を率いて、エドムとモアブ、アモンの地を通過するだけで、そこを襲いませんでした、それを主が命じられたからです。そこで、今、その民から滅ぼされる恐れがあったのです。主が命じられたことで起こっている問題なのだから、主が解決してくださいという祈りです。主に従って、主の御言葉で命令されていて、それで起こった問題なら、主が解決してくださいます。そのことをヨシャパテは訴えています。

20:12 私たちの神よ。あなたは彼らをさばいてくださらないのですか。私たちに立ち向かって来たこのおびただしい大軍に当たる力は、私たちにはありません。私たちとしては、どうすればよいかわかりません。ただ、あなたに私たちの目を注ぐのみです。」20:13 ユダの人々は全員主の前に立っていた。彼らの幼子たち、妻たち、子どもたちも共にいた。

午前礼拝で学びました、ヨシャパテは自分には力がないことを告白しました。だから、今、主から目を離さないでいます。これしかできることはなかったからです。

### 2C 慰めの預言 14-23

次に、主が慰めの預言を与られます。

20:14 ときに、主の霊が集団の中で、アサフ族の出のレビ人やハジエルの上に臨んだ。彼はマタヌヤの子エイエルの子ベナヤの子ゼカリヤの子である。20:15 彼は言った。「ユダのすべての人々とエルサレムの住民およびヨシャパテ王よ。よく聞きなさい。主はあなたがたにこう仰せられます。『あなたがたはこのおびただしい大軍のゆえに恐れてはならない。気落ちしてはならない。この戦いはあなたがたの戦いではなく、神の戦いであるから。20:16 あす、彼らのところに攻め下れ。見よ。彼らはツイツの上り道から上って来る。あなたがたはエルエルの荒野の前の谷のはずれで、彼らに会う。20:17 この戦いではあなたがたが戦うのではない。しっかり立って動かずにいよ。あなたがたとともにいる主の救いを見よ。ユダおよびエルサレムよ。恐れてはならない。気落ちしてはならない。あす、彼らに向かって出陣せよ。主はあなたがたとともにいる。』」

祈りを捧げているうちに、主の霊が降りました。そして預言を行ないました。午前礼拝でも学びましたが、これは主の戦いであること。けれども、攻め下らなければいけないこと。自分が関わることによって、初めて主がご自分の戦いを見せてくださいます。主は、私たちと共にいて、私たちと共に働きたい

と願っておられます。ですから、私たちがいつでも主に自分をささげている必要があります。

20:18 それで、ヨシャパテは地にひれ伏した。ユダのすべての人々とエルサレムの住民も主の前にひれ伏して主を礼拝し、20:19 ケハテ族、コラ族のレビ人たちが立ち上がり、大声を張り上げてイスラエルの神、主を賛美した。

ヨシャパテがしたのは、その約束が実現する前からそれを信じて、礼拝して、賛美したことです。私たちが礼拝するのは、まさにそのことをしています。まだ先にある約束、目に見えない約束をすでに与えられたものとして信じ、そのことに基づいて礼拝し、賛美するのです。

20:20 こうして、彼らは翌朝早く、テコアの荒野へ出陣した。出陣のとき、ヨシャパテは立ち上がって言った。「ユダおよびエルサレムの住民よ。私の言うことを聞きなさい。あなたがたの神、主を信じ、忠誠を示しなさい。その預言者を信じ、勝利を得なさい。」20:21 それから、彼は民と相談し、主に向かって歌う者たち、聖なる飾り物を着けて賛美する者たちを任命した。彼らが武装した者の前に出て行って、こう歌うためであった。「主に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。」

今朝の交読文で読みました詩篇にも、この言葉がありました。彼らが打ち勝つのは、あくまでも主の恵みに拠るものだ、ということです。

20:22 彼らが喜びの声、賛美の声をあげ始めたとき、主は伏兵を設けて、ユダに攻めて来たアモン人、モアブ人、セイル山の人々を襲わせたので、彼らは打ち負かされた。20:23 アモン人とモアブ人はセイル山の住民に立ち向かい、これを聖絶し、根絶やしにしたが、セイルの住民を全滅させると、互いに力を出して滅ぼし合った。

これが喜びの力の声です。賛美の力の声です。私たちが、礼拝賛美を説教の前の余興とばかりに軽視したら、神の御心を大いに損ねます。賛美して、礼拝することによって、肉の要塞を打ち砕くことが可能なのです。そのような御霊の力が働く礼拝を期待したいです。

### 3C 分捕り 24-30

20:24 ユダが荒野に面した物見の塔に上ってその大軍のほうを見渡すと、なんと、死体が野にころがっている。のがれた者はひとりもない。20:25 ヨシャパテとその民が分捕りをしに行くと、その所に、武器、死体、高価な器具を数多く見つけたので、これを負いきれないほど、はぎ取って、自分のものとした。あまりにも多かったので、彼らはその分捕りに三日かかった。20:26 四日目に、彼らはベラカの谷に集まり、その所で主をほめたたえた。それゆえ、人々はその所の名をベラカの谷と呼んだ。今日もそうである。

ベラカは祝福という意味があります。ヨシャパテに恐怖を与えていたその谷が、今は祝福の谷になり

ました。分捕り物が数えきれないほどありました。靈的にも同じです。主が勝利を与えてくだされば、私たちは魂の分捕り物を手に入れることができます。

20:27 それから、ユダとエルサレムの人々はひとり残らず、ヨシャパテを先頭にして、喜びのうちにエルサレムに凱旋した。主が彼らに、その敵のことについて喜びを与えられたからである。20:28 彼らは、十弦の琴、立琴、ラッパを携えてエルサレムにはいり、主の宮に行った。20:29 地のすべての王国が、主はイスラエルの敵と戦われたということを聞いたとき、神の恐れが彼らの上に臨んだ。20:30 このようなわけで、ヨシャパテの治世は平穩であった。彼の神は、周囲の者から守って、彼に安息を与えられた。

ヨシャパテは、凱旋の時にも音楽を奏させ、そしてエルサレム、主の宮に入っています。初めから祈りと礼拝、そして賛美であり、終わっても賛美の音楽を奏でています。そして、この戦いによって周囲の国に恐れが生じて、戦いに挑むことがなくなり、ユダの国は平穩を保ちました。

## 2B 業績と失敗 31-37

そして最後、ヨシャパテの業績です。

20:31 このようにして、ヨシャパテはユダを治めた。彼は三十五歳で王となり、エルサレムで二十五年間、王であった。その母の名はアズバといい、シルヒの娘であった。20:32 彼はその父アサの道に歩み、その道からそれることなく、主の目にかなうことを行なった。20:33 しかし、高き所は取り除かなかったの、民はなおも、彼らの父祖の神にその心を定めようとしなかった。20:34 ヨシャパテのその他の業績は、最初から最後まで、イスラエルの王たちの書に載せられたハナニの子エフーの言行録にまさしく記されている。

ヨシャパテは父アサと同じような、主の目にかなうことを行いました。そして高き所は、取り除いてもまだ民が作っていたので、この高き所を取り除くのはヒゼキヤ王になるのを待たねばなりません。

20:35 その後、ユダの王ヨシャパテは、悪事を行なったイスラエルの王アハズヤと同盟を結んだ。20:36 彼はタルシシュへ行くための船団をつくるためにこの王と結んだ。彼らはエツヨン・ゲベルで船団をつくった。20:37 そのとき、マレシャの出のドダワの子エリエゼルがヨシャパテに向かって預言し、こう言った。「あなたがアハズヤと同盟を結んだので、主はあなたの造ったものを打ちこわされました。」そうこうするうちに、船は難破し、タルシシュへそのまま行くことができなかった。

ついに、ヨシャパテも一つの欠点を克服することができませんでした。再びアハブの息子アハズヤと同盟を結びました。そして、再び神からの叱責があります。今度は、その船による貿易プロジェクトが難船という痛みを与えられました。そして列王記第一の最後を読むと、アハズヤの二回目の誘いには彼は断っています。アハズヤも、アハブと同じようにヨシャパテの富に魅かれて、これを利用しようと思ったのでしょう。

ここから私たちは、今、自分がお付き合いしている人々がはたして、自分に悪い影響を与えていないかどうかを吟味する必要があります。どのような人と交わりをしているでしょうか？そこに、正しいことではなく、悪いことに対しての妥協はないでしょうか？肉の行いが顕著ではないでしょうか？酩酊がありますか、遊興がありますか？陰口がありますか、中傷がありますか？親戚づきあいと称して、偶像礼拝にも加担しているかもしれません。人と人の結びつきを持つには仕方がない、という考えは、ヨシャパテがアハブまたアハズヤと結んだことと同じです。

けれども、その人を愛して、たとえ悪を行っていても、それを耐え忍んで接していくのであれば、良いことです。愛は多くの罪を覆います。悪は悪としますが、それを心に留めずその人を受け入れるのです。